

井伏鱒二

ibuse masuji



kōdansha
bungei bunko



やくよ
厄除け詩集

い
ふ
せ
ま
す
じ
井伏鱒二

© Setsuyo Ihuse 1994

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

一九九四年四月一〇日第一刷発行 一九九四年七月二〇日第三刷発行

発行者 野間佐和子

発行所 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2・12・21 〒112-01

電話 編集部 (03) 5395・3513

販売部 (03) 5395・3626

製作部 (03) 5395・3615

デザイン 菊地信義

製版 豊国印刷株式会社

印刷 豊国印刷株式会社

製本 株式会社国宝社

Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は、小社書籍製作部宛にお送りください。

送料は小社負担にてお取替えします。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは
文芸文庫出版部宛にお願いいたします。（庫文）



講談社
文芸文庫

ISBN4-06-196267-1

厄除け詩集

ibuse masuji

井伏鱒二

講談社



文芸文庫

目次

厄除け詩集

なだれ

つくだ煮の小魚

歳末閑居

石地蔵

逸題

冬の池畔

按摩をとる

寒夜母を思ふ

かなめの生垣

二 三 四 六 八 二〇 二三 二四 二六 二八

つばなつむうた

顎

山の図に寄せる

訳詩

題袁氏別業

照鏡見白髪

送朱大入秦

春晚

洛陽道獻呂四郎中

長安道

復愁

逢俠者

答李潛

聞雁

靜夜思

田家春望

秋夜寄丘二十二員外

別廬秦卿

勸酒

古別離

登柳州蛾山

雨滴調

溪流

魚拓

四七

四八

四九

五〇

五一

五二

五三

五四

五五

五七

五九

六〇

かすみ

つらら

勉三さん

川原の風景

緑蔭

蛙

歌碑

春宵

拾遺抄

黒い蝶

縄なひ機

シンガポール所見

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

再疎開途上

水車は廻る

夜の横町

陸稻を送る

紙風

あの山

泉

石垣

誤診

蟻地獄

冬

五

八

三

四

九

一〇

一一

一三

一六

一八

二〇

人と作品

河盛好藏 二三

こんこん出やれ——井伏鱒二の詩について

大岡 信 二三

年譜

松本武夫 二四

著書目録

松本武夫 二五

厄除け詩集

厄除け詩集

な
だ
れ

峯の雪が裂け

雪がなだれる

そのなだれに

熊が乗つてゐる

あぐらをかき

安閑と

蓐なほこをすふやうな恰好で

そこに一びき熊がゐる

つくだ煮の小魚

ある日 雨の晴れまに

竹の皮に包んだつくだ煮が

水たまりにこぼれ落ちた

つくだ煮の小魚達は

その一ぴき一ぴきを見てみれば

目を大きく見開いて

環わになつて互にからみあつてゐる

鰭ひれも尻尾も折れてゐない

顎ごきふの呼吸するところには 色つやさへある

そして 水たまりの底に放たれたが
あめ色の小魚達は
互に生きて返らなんだ